

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	安藤 潤			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
現代の経済・社会：ジェンダー、家事労働、結婚を中心に							
内容							
4年後期のゼミは各ゼミ生の卒業研究テーマとアンケート調査やインタビュー調査の結果を中心に議論したいと考えています。							
使用予定テキスト							
参考文献							
川口章『ジェンダー経済格差』勁草書房, 2008 年.							
公益財団法人家計経済研究所『季刊 家計経済研究』各年各号.							
佐藤博樹・永井暁子・三輪哲[編著]『結婚の壁 非婚・晩婚の構造』勁草書房, 2010 年.							
治部れんげ『稼ぐ妻・育てる夫 夫婦の戦略的役割 アメリカ人 52 人のワーク・ライフ・バランス』勁草書房, 2009 年.							
橋本俊詔[編著]『現代女性の労働・結婚・子育て』ミネルヴァ書房, 2005 年.							
西村純子『ポスト育児期の女性と働き方 ワーク・ファミリー・バランスとストレス』慶應義塾大学出版会, 2009 年.							
松田茂樹『何が育児を支えるのか 中庸なネットワークの強さ』勁草書房, 2008 年.							
山田昌弘[編著]『「婚活」現象の社会学 日本の配偶者選択のいま』東洋経済新報社, 2010 年.							
その他、様々な研究所の論文集、レポートなどを考えています。							
ゼミの進め方							
各ゼミ生による報告と議論が中心になります。							
成績評価基準							
報告・司会進行・質問・課題提出などゼミへの取り組み方全般とレポートで評価します。欠席は理由の如何を問わず 3 回までですが、無欠席が大原則です。							
ゼミ選択上のアドバイス							
すでに選択しているので特にありません。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	臼井 陽一郎			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
		情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
紛争と和解の政治学							
内容							
主な活動							
1. 他大学と合同ゼミ合宿を開催する。2016年度は9月17・18日に新潟で、テロをテーマに進めていく。 2. 紛争と和解、そして平和をテーマに、映像作品を創り上げていく。							
予定学習項目							
専門書購読：							
EU加盟28カ国のEUをまとめる政治のリーダーシップ。 分断社会のデモクラシー：国境を越える政党。 分断社会のデモクラシー：越境する市民社会。 分断社会のデモクラシー：権力分有モデル。 分断社会のデモクラシー：熟議による和解。 移民統合政策と多文化共生の理念（偽善）。 スウェーデンの移民政策、向かうべきその先は？ 集会的記憶と歴史、フランスのアルメニア法。 西ドイツとイスラエルの和解、そして中東戦争。 グローバル社会の正義：EUと国際刑事裁判所。 グローバル社会の正義：EUの文民安全保障。 グローバル社会の正義：EUと人間の安全保障。 グローバル社会の正義：国際組織犯罪と戦うEU。 世界貿易の国際規範：EUの通商戦略。 世界貿易の国際規範：EUによる動物福祉。 グリーン経済とシングルマーケット。 規範政治の見方：加盟国拡大と近隣政策。 規範政治の見方：規範パワーと構成主義。							
ワークショップ：							
テロの現実、歴史、原因、対策、今後。 保護責任の原則と人道的介入。 壁／橋モチーフに紛争と和解を語る。 内乱迫る国の首相の演説。 写真から物語を作る。 スコットランド独立投票を考える。 ヨーロッパについて、EUについて、イメージを語りあう。 3つのパワー（軍事力・経済力・規範力）の関係をどうイメージするか。 シャルリ・エブド襲撃事件を考える。 社会正義の志向性、インタビューで。 大国アメリカの人種差別について。 戦争画について。 ナチスと食について。							
その他、映画やドキュメンタリーなど、各種映像資料を視聴してディスカッションする。							
使用予定テキスト							
指定教科書： 臼井陽一郎編著『EUの規範政治』ナカニシヤ出版 松尾秀哉・臼井陽一郎編著『紛争と和解の政治学』ナカニシヤ出版							
参考書： 会田誠・榎木野衣『戦争画とニッポン』講談社 藤原辰史『食えること考えること』共和国 中村寛『残響のハーレム』共和国							
ゼミの進め方							
文学や映画の作品も利用する。テキストを二冊読む（『EUの規範政治（仮）』および『紛争と和解の政治学』）が輪読形式にはしない。とりあげる章の理解を前提に（他の文献・資料も利用しつつ）取り組むべき問いを設定し、それを4～5人のグループに分かれてディスカッションし、まとめ・報告してもらう。グループは各回ごとに作り直す（ほぼすべての参加学生が言葉を交わせるようにしたい）。また適宜テキストを離れ映像資料なども使用しつつ、グループワークにより創造型の討論をトレーニングしていく。各回終えるごとに全員に 400 字程度のコメントメモを提出してもらい、それを皆で共有する。その 400 字課題で文体を鍛えていく。							
成績評価基準							
グループワークおよびプレゼンテーション（どのようなものであれチームの中でなんらかの貢献ができていたか） 30％ 毎回のコメントカード（授業で学んだことを毎回適切に記録しておくことができたか） 30％ 合同ゼミ合宿や映像作成プロジェクトの活動 40％							
ゼミ選択上のアドバイス							

飲み会や小旅行、合宿、他大学との合同ゼミなど、授業時間外の活動を授業の一環として積極的に実施していく。勉強の場ではあるが、どちらかというと、オールラウンドサークルのようなものにしていきたい。

その他

LINE グループで連絡し合うので、スマホでない人はPC で利用してもらうことになる。そのつもりでいてほしい。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	矢口 裕子			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
		情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
英語テキスト講読によるジェンダー／文学／文化批評							
内容							
文学研究の世界では、1980年代後半以降、「ジェンダー・階級・民族性」という新たな視点を導入することにより、それまで埋もれていた周縁的位置に追いやられていた作家・作品が発掘され、さらに、すでに正典（キャンオン）として評価が確立しているかに見えた作品を読み直す作業が盛んに行われるようになった。また、そうした新たな批評の道具を映画・音楽等ポピュラーカルチャーの解読に応用する試みも活発である。 このゼミでは、そうした批評的視点から文学、映画、音楽、文化一般や時代を読み解くこと、最終的にはその成果としての卒業論文をまとめることを目標とする。 日本語のテキストと英語のテキストを両方取り上げる予定だが、場合によっては英語のみとする、翻訳のゼミにする等の選択肢もありえる。							
使用予定テキスト							
田嶋陽子『ヒロインはなぜ殺されるのか』講談社 舌津智之『どうにも止まらない歌謡曲』晶文社 Harry M. Benshoff and Sean Griffin, Gender and American Film , Eihosha. Anais Nin, Linotte: The Diary of Anais Nin , Harcourt.							
ゼミの進め方							
レポーター制によりテキストの精読を行う。レポーターの仕事は、テキストの内容をまとめ、調べるべきことを（舐めるように）調べ、そのうえで自分の意見・疑問・論点を提示し、ゼミ内の議論を活性化させること。むろんレポーター以外の学生もテキストを精読し、自分の意見を用意してゼミに臨むことが求められる。							
成績評価基準							
レポーターとしてのゼミへの貢献度、普段の発言等ゼミへ取り組む姿勢、半期ごとに課すレポートの成果を総合的に判断する。							
ゼミ選択上のアドバイス							
4年ゼミは卒論の完成年度にあたる。ゼミで学び、吸収したことを論文執筆に発展させる、それは、受容から発信へという決定的な転回である。そのためには相当な覚悟、忍耐と情熱が必要であることを承知してほしい。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	越智 敏夫			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
		情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
政治思想と現代社会 あるいは「自分の人生について考えることは他人の幸福について考えることになるのか」							
内容							
卒論指導では各学生がテーマを見つけてそれに取り組めます。しかしこのゼミナールではそれらのテーマに直接関連したことを全員で議論することはありません。各自のテーマについては「政治」と「思想」と「アメリカ」に関連したことであれば広く指導するつもりでいます。しかしはっきりいって、現代社会の事象でこの三つに関連しないものは存在しません。なので、およそみなさんが関心をもったことについては指導します。							
ゼミナールでは現代の政治思想家の論文をとりあげ、「ものを考えるということはどういうことか」について全員で深く議論したいと思います。それは人間らしく生きるということはどういうことかを問うことでもあります。すべての人間は阿呆のふりをしているうちに本当の阿呆になってしまいます。しかしその危険性を少しでも低くするにはどうしたらいいのか。また、なぜここまで現代社会は味気ないのか。どんな理由でこうなったしまったのか。さらには、どうせ社会の歯車として生きていくのなら少しでも存在意義を自分で見出せる歯車になるにはどうしたらいいのか。そういう問題について考えたいと思います。							
もし「今の社会はすばらしい」とか「自分は歯車じゃない」と思っている人がいたら、それは社会に関する理解が足りない、あるいはたんに頭が悪いということです。ゼミナールという学習には絶対的に不向きですから何か別の道を歩まれたら良いと思います。							
ゼミナールの具体的な内容としては現代社会について同時代的に考えている人々の論文を読んできます。これまでの越智ゼミでは、マックス・ヴェーバー、ヴァルター・ベンヤミン、ハンナ・アレント、丸山眞男、ミッシェル・フーコーという5人の政治思想家に限定していましたが、思うところあって、今年度は範囲を広げて他の論者のものも読むことにしました。誰の論文を読むかはゼミ生と相談しながら決めます。							
しかし一回読んだだけで理解できるようなものを読むことは絶対にないので、ゼミ前の熟読が必要になりますし、ゼミでの議論も複雑なものになると思います。自分の意見を自分から発言するような積極的な学生の参加を期待します。							
こうしたゼミナールが各自の卒業論文の問いとどう結びつくのか心配する人もいるかもしれませんが。しかしこれらの問いについて考えることは必ず論文を書くうえで役立つことです。もっと正確に言えば、このような問いを欠いた問題設定によって書かれた論文に価値はありません。価値のある論文を書いてもらいたいと思っています。							
使用予定テキスト							
たとえば、下記。具体的には学生と相談します。 ヴェーバー『職業としての学問』 岩波文庫 ヴェーバー『職業としての政治』 岩波文庫 ベンヤミン『複製技術時代の芸術』 晶文社 ベンヤミン『ドイツ悲哀劇の根源』 講談社文芸文庫 アレント『全体主義の起原』 みすず書房 アレント『暴力について』 みすず書房 丸山眞男『現代政治の思想と行動』 未来社 丸山眞男『日本の思想』 岩波新書 フーコー『知への意志 性の歴史』 新潮社 フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』 新潮社							
ゼミの進め方							
テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、テキスト内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」という3者を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。							
成績評価基準							
出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。							
ゼミ選択上のアドバイス							
自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そこををよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。							
その他							
合宿は夏期休業中に3・4年合同でおこないます。県内を予定しています。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研(後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	小山田 紀子			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
		情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
グローバル化と地域社会—中東・北アフリカ・ヨーロッパ・日本を中心に—							
内容							
●内容(目的やねらい)							
4年次後期のこのゼミでは、各学生が決めた個別研究テーマに従って、前期と同様に文献資料収集や現地調査、インタビューなどを進める。資料収集に当たっては教員と相談しながら進めていく。研究の進み具合によって順番に研究報告をし、他の学生からの質問や議論の中から示唆を得て研究をさらに豊かなものになるよう進めていく。秋に行われる卒論中間発表会において、各自のテーマとその目的、論文の構成、内容の要旨を発表し、ゼミ担当教員以外の教員や学生の質疑応答から得た成果を踏まえて、教員の個別指導を受けながら期日までに卒論を完成させる。							
使用予定テキスト							
各学生が個別研究のテーマで、教員と相談しながら参考文献資料を決めていく。							
ゼミの進め方							
後期には4年次生の卒論中間発表会の出席や他学年・他学科のゼミとの合同ゼミも開催し、本ゼミのテーマの特徴を他ゼミとの交流から学んだり、他のゼミの異なる視点を取り入れたりして、個別の卒業研究をより豊かなものにしていく。最終的には卒論中間発表会の成果を踏まえて、教員の個別指導を受けながら卒論を完成させる。							
成績評価基準							
卒業研究の内容と、演習への出席状況やそれに取り組む姿勢等により総合的に評価する。							
ゼミ選択上のアドバイス							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研(後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×
国際研究ゼミナール6	神長 英輔						

ゼミテーマ・タイトル

ロシアと私、日本のなかのロシア、ロシアのなかの日本。
自分は何が知りたいのか、それを発見しよう。
どうしたらそれを「わかる」ことができるのか、考えよう。

内容

専門分野の研究書を精読かつ多読します。

文化史を含むロシア史と歴史学の方法について学びます。
これらの分野に関する基本知識と知的生産の技術を身につけてください。

また、中級水準のロシア語文章を精読し、ロシア語作文も練習します。

最終的には広義のロシア研究の発展に寄与できる卒業論文を書いてください。
授業ではたくさん読み、書き、話すことを期待しています。

使用予定テキスト

3 年ゼミでは教科書として

- ・栗生沢猛夫『図説 ロシアの歴史』河出書房新社、2010 年
- ・米川哲夫ほか『ロシア語作文の基礎（第二版）』

を使用します。

授業開始前に教科書販売所で購入し、授業初回から持参してください。

3年ゼミではこのほかに
『図説 帝政ロシア』
『図説 ソ連史』（以上、河出書房新社）、
『ソ連史』（ちくま新書）、
『ロシア文学 名作と主人公』（自由国民社）、
などを読む予定です。

4年ゼミは各人の関心に応じて読む本と論文を決めます。基本的には広義のロシア研究に関する本を読みます。

ロシア語のテキストはこちらで用意します。

ゼミの進め方

授業の内容は下記の 1・2・3・4 の通りです。

1. 研究書精読

上記の本を読み進めます。
毎回の担当者を決め、担当者は自分が分担する部分を精読し、必要なことを調べて報告します。

担当者は事前に説明のための配布物（その日の報告内容をA4で1枚程度に要約したもの）を配付します。

ほかの人は当該部分を読んで内容に即した質問をするのが義務です。
質問が少ない方にはそのつどペーパー執筆を課します。

2. 中級ロシア語精読

外国人のロシア語学習者向けの教科書
『Читаем о России по-русски』
を読みます。
全員の毎回予習が前提です。
(ロシア語履修者の参加を前提としています)

3. ロシア語中級作文

上記の作文教科書を使って作文の練習をします。
予習が前提です。

4. 発表

3年ゼミ・4年ゼミともに卒業論文の進捗状況を適宜報告し、4年ゼミでは定期的に卒業論文の原稿を提出してもらいます。

長期休業中には計10冊程度の研究書を読み、要旨をまとめ、休業明けに要旨をまとめて提出してもらいます。

すべての連絡はメールでおこないます。
指示に従い、期限までに自分のメールアドレスを所定のメーリングリストに

登録してください。

参加者には交代で毎回の授業内容をメーリングリスト宛てに報告してもらいます。

なお、参加者の人数等に応じて上記の内容を多少変更することがあります。

成績評価基準

授業の参加度と課題の提出状況をもとに評価します。

欠席の多い方、自分の発表回を無断欠席した方の単位は認めません。

やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

ゼミ選択上のアドバイス

参加者に求めるものは主体性と積極性です。

学生としての最低限の約束事を守れない方はご遠慮ください。

毎週の課題が多いため、予習にはかなりの時間が必要になります。

本を読むのが嫌いな方もおすすめできません。

ロシア史やロシア学について情熱を持って学びたい人のための授業です。

覚悟を決めて参加してください。

学問もスポーツや芸術と同じです。

徹底した基礎訓練の蓄積の上に創造性が開花します。

いっしょに本気で学びましょう。

その他

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	熊谷 卓			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

現代社会を生き抜く-国際法という視点から-

内容

1 ゼミの内容

戦争、貧困、環境保護、移民、宗教対立、国際テロなど、我々の生きる現代社会は地球規模の様々な問題を抱えています。本ゼミナールにおいては、いかにしてこれらの問題を理解し、その原因をあきらかにし、対処のしかたを 考えるか、これまでに試みられた様々な議論を参照しつつ、ゼミナール構成員と共に考えてみたいと思います。

なお、上に見たような問題について考える場合、本ゼミナールにおいては、指導教員の専攻分野である（国際）法を分析の手段として用いることを基本にしています。比喻を用いていえば、今まさに解決を求められる諸問題について、自分が弁護士だったらどう訴訟するか、検察官だったらどう有罪を勝ち取るか、あるいは裁判官だったらどのような判決を下すべきかといった多様な視点から、取り組むことを目的とします。

もっとも、問題の性質によっては、法学的な視点にとどまらず、政治、経済、歴史的なアプローチも加味しながら、考察を行います。 以上のような作業をコツコツとでも、しっかり行うことで、「現代社会を生き抜く」（強い社会人となる）ための術(すべ)がゼミナール構成員に伝承されるものと信じています。

なお、法について苦手意識があっても、やる気があれば、大丈夫です。

2 教員の現在の関心

21世紀の国際社会が解決を求められる国際テロリズムについて、国際法からどのような対処ができるか、研究をしています。

3 これまでの卒業論文のタイトル例(ごく一部です。見れば分かるように、「法」に関するものばかりではありません!)

多国籍企業の社会的責任について、集団的安全保障体制の課題-ケーススタディーを中心に-、国際人道法はなぜ守られないのか-アメリカによる対テロ戦争(war on terror)を中心に-、裁判員制度が及ぼす国内司法制度への影響、公共交通の課題-新潟市の事例を中心に-、日本の小学校英語教育について-韓国との比較を中心に-、日本の学校教育における児童・生徒の人権一体罰問題の解決に向けて-

使用予定テキスト

水上編著『国際法』(2002年、不磨書房)
阿部浩巳『国際人権の地平』(2002年、信山社)

なお、判例(裁判の判決)を読むこともあります。

ゼミの進め方

テーマごとに使用するテキストや資料をゼミナール構成員全員で考察します。その際、報告者が中心的研究発表を行います。その他の構成員もそれに対する質疑という形で主体的に参加してもらいます。

成績評価基準

ゼミ報告やレポート、あるいはゼミへの参加度を総合的に判断し、成績を付けます。

ゼミ選択上のアドバイス

「ゼミ選択上のアドバイス」の続き

個人的な経験をいえば、大学・大学院のゼミで指導いただいた2人の先生なくして、現在のわたしは絶対に存在していません。情報文化学科でも、「3.4年ゼミ」はそれぐらい重要なものと思っています(本ゼミの卒業生でも大学院で研究を継続している人も居ます)。ですので、十分に検討してゼミを選んで欲しいと思います。

その他

以下、参考までにまとめとして(繰り返しも含め)。

(1) 熊谷ゼミの分析視覚は?→法学的思考(社会科学的思想の1つ)です。もっとも、広く他の学問分野のアプローチも取り込みます。卒論のテーマも結果的に多彩です。

(2) 熊谷ゼミの地理的フィールドは?→限定しません(フランス法も個人的には勉強してきました)。

(3) ゼミ合宿は?→これまで日光、会津、村上、新発田、咲花温泉、群馬、伊香保、越後湯沢等で実施してきました。

(4) (国際)社会の動向に何らかの意味で関心を持っている人に勧めます。

(5) 「3.4年ゼミ」は4年間の学業の集大成であると共に卒業後の人生にも関わります。

ですので、「絶対頑張ります!」という人にこのゼミナールを勧めます。

どうぞよろしくお願いします。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	山田 裕史			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
東南アジアにおける国際協力、東南アジアの政治・社会							
内容							
東南アジア地域を対象とした紛争と平和構築、貧困と開発などの分野における国際協力に関する研究、または、東南アジア地域における選挙や政党、議会、民主化、社会運動などを中心とする政治・社会の諸側面に関する研究を中心に行います。履修者は、「国際研究ゼミナール5」で実施した卒業論文の研究テーマに関する文献・資料調査で得た情報をまとめ、口頭発表と論文執筆を行います。							
使用予定テキスト							
履修者の研究分野と関心にもとづきテキストを選定するほか、各自のリサーチ課題に応じたテキストを紹介します。							
ゼミの進め方							
履修者の研究分野や関心にもとづきテキストを選定し、(1) テキストの講読、報告と討論、(2) 各自の研究テーマ設定に関する報告と討論、を組み合わせで行います。							
成績評価基準							
(1) 出席、(2) 各自の研究テーマ設定に関する報告と討論の内容、をもとに総合的に評価します。							
ゼミ選択上のアドバイス							
関心対象地域が東南アジア以外であっても、国際協力分野に関する研究を希望する学生は歓迎します。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	佐々木 寛			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
		情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
平和のための地球政治学——新しい<文明>を求めて							
内容							
<p>当ゼミでは、危険や問題がグローバルに展開する現代で、人間がすこしでもよりよく生きぬいていくための方策をいっしょに考えてみようと思います。そのためにはまず、現代の危機や問題の本当の姿をしっかりと知的につかまなければなりません。身近な問題がもつ世界的な意味をおのが理解すること。これが第一のねらいです。第二に、このような問題を考えるにあたって、なぜ既存の知的な枠組み＝専門分化した社会科学だけではダメなのか、いかにこれまでの「勉強」が、人間がいきいき生きていくための「学問」をダメにしてきたのか、について考えてみようと思います。その意味で、新しい学問運動としての「平和学」の可能性や新しい大学のあり方などについても議論できればと思います。そして最後に、広い世間でさまざまな展開する新しい試みや活動を見る中で、現代でよりよく生きてゆくための新たな方策、新しい生き方や<文明>のあり方をともに探求できればと思います。さまざまな市民活動やN G Oで活躍する人たちをゼミに招いたり、ゼミ学生自身が自分たちの力でN G Oを設立・運営したり、いろいろなことに挑戦しようと思います。</p> <p>最終的に各自ゼミ論文（3年次）、および卒業論文（4年次）の作成を目指すため、多種多様なテキストを読みこんでゆくだけでなく、さらに必要に応じて調査旅行やフィールド・ワークも行います。また、映画をはじめとする映像資料もできるだけ多く活用する予定です。なお、佐々木ゼミでは毎年、海外に平和研修旅行に訪れるのが慣例になっています。各地の歴史資料館や戦争/平和記念館（ドイツでは「アウシュヴィッツ」、韓国では「ナヌムの家」）などを訪れ、身体全体で世界の問題を感じ、思考することを目指します。</p> <p>当ゼミでは広い意味での暴力や平和に関する問題を扱いたいと思いますが、細かいことは、参加学生の自由意思にゆだねます。扱うテキストに関しては以下に一例として挙げたものを参考にしてください。</p>							
使用予定テキスト							
<p>◎H. アレント『暴力について』みすず書房 ◎A. ギデンズ『近代とはいかなる時代か?』而立書房 ◎U. ベック『危険社会』法政大学出版局 ◎A. メルッチ『現代に生きる遊牧民』岩波書店 ◎E. サイド『知識人とはなにか』平凡社 ◎P. フルデュー『メディア批判』藤原書店 ◎日本平和学会編『13・11』後の平和学』早稲田大学出版部 など。 ――他に必要に応じて英語文献も読みます。</p>							
ゼミの進め方							
<p>ゼミの進め方や運営方法に関しては、基本的に参加者と相談して決めます。ただ、テキストを読む場合は、報告者をたてて報告をしてもらい、それを討論者が整理・コメントするという方法をとろうと思います。その後は自由討論。司会も学生です。だから教員は必要最小限のことしか話しません。参加学生がゼミをつくりあげます。</p>							
成績評価基準							
<p>ゼミへの参加態度や貢献度　＋　レポートの出来。</p>							
ゼミ選択上のアドバイス							
<p>能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽しくつくっていかうとする気概をもった学生、また、大学生活を締めくくる上で悔いのない卒業論文を書き上げたいと思っている諸君を歓迎します。</p>							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)				×	×	×	
情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)				×	×	×	
情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)				×	×	×	
情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)				×	×	×	
国際研究ゼミナール6	澤口 晋一			情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
自分の脚を使って、観て、考えるゼミ。							
内容							
国際研究ゼミナール5での勉強内容をさらに発展させる。各自のテーマに関係した論文の講読を継続する。							
使用予定テキスト							
なし							
ゼミの進め方							
個々のテーマに関係する論文（専門誌掲載論文）を前期から継続させ5本以上読むと同時に、夏休みの調査成果をまとめる。							
成績評価基準							
ゼミへの取り組み姿勢等を総合的に評価。							
ゼミ選択上のアドバイス							
その他							

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	小林 伊織			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
		情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
World Englishes Seminar for fourth year students							
内容							
There are more non-native speakers of English in the world today than there are native speakers. Asia is the region with the largest number of English speakers in the world. This means that the learner in Japan is more likely to use English with other non-native speakers, particularly those from Asia, than with native speakers.							
There is no single standard variety of English in the world. The spread of English around the world meant that many different varieties of English developed in various locations. It did not mean that British English or American English was transplanted in different locations as it was.							
English is an Asian language. Japan being a part of Asia, it is also a Japanese language. When a Chinese, a Japanese, a Korean and a Russian talk to each other in English, each one speaks his/her own variety of English. Here, what is considered to be correct or incorrect in American English is irrelevant as long as they can understand each other’s English. The learner from Niigata should be able to use English as his/her own tool to express the cultures and thoughts of Niigata to people around Asia and all over the world.							
In the Kobayashi seminar, we first look at the framework and key concepts of World Englishes. Then we explore selected varieties of world Englishes, such as Philippine English, Singapore English, Indian English and West African English. Finally, we consider the implications of the emergences of new Englishes on English language teaching and learning.							
使用予定テキスト							
Honna, N., Takeshita, Y., & D’Angelo, J. (2012). Understanding English across cultures. Tokyo: Kinseido.							
Honna, N., Takeshita, Y. (2009). Understanding Asia. Tokyo :Cengage Learning.							
Jenkins, J. (2003). World Englishes: Resource book for students. London: Routledge.							
Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge: Cambridge University Press.							
本名信行(2006) 『英語はアジアを結ぶ』 玉川大学出版部							
本名信行(2003)『世界の英語を歩く』 集英社							
ゼミの進め方							
1. Pre-class reading 2. Short introductory lecture 3. Small group discussion 4. Student presentation							
成績評価基準							
20% Attendance 20% Participation 20% Presentation 40% Essay							
ゼミ選択上のアドバイス							
It is recommended to take the Kobayashi seminar if you plan to write a graduation thesis in English about topics related to World Englishes in the fourth year.							
その他							
TBA							

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	アレクサンドル プラ ーソル			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
		情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
ロシア社会史、現代ロシア文化、日露文化比較研究							
内容							
生徒にゼミテーマに沿うっての分野を選んでもらって、信頼できる参考文献の選択、研究方法、アプローチ、卒業論文の書き方等の指導を行う。							
使用予定テキスト							
テキストを利用しない。							
ゼミの進め方							
ゼミ生に各々興味のあるテーマを選んでもらって授業を進める。それぞれ違うテーマの発表論争に参加することによって生徒の知識を深めることを目指す。人数によって、発表は毎週か隔週かになる。発表しないときは他人の発表を聞いて論争に参加しなければならない(質問、疑問、コメントも可)。調べてきた資料は卒論研究の基礎をなすので、徹底的に進まなければならない。							
成績評価基準							
出席率(66%以上が必要)、発表や発言の質、論争参加によって成績を評価する。							
ゼミ選択上のアドバイス							
なるべく早く興味のある研究テーマを選ぶのは重要である。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	藤本 直生			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
		情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
英語による社会言語学および談話分析 Sociolinguistics & Discourse Analysis in English							
内容							
「ことばを話す」ことは、私たちが生活する上でとても大切な能力です。私たちは母語である日本語を無意識に話しているように思いますが、場所や状況に合わせて適切に使っています。また、ことばは生きていて、絶えず変化しています。社会言語学とは、このようなことばの変化に焦点を当てた学問です。本ゼミでは、3年次の国際研究ゼミナール3、4で学んだ次の10の観点からなる社会言語学の基本的なコンセプトをもとに、談話分析の研究手法も加えて学びます。							
1. Gender 男女によることばの差							
2. Age 年齢差によることばの違い							
3. Ethnicity 人種・民族による言語差							
4. Social class and regional differences 社会階級と地域による言語の違い							
5. Language and culture 言語と文化							
6. Forms of address 呼びかけ表現							
7. Politeness ことばによる丁寧表現							
8. Image and association イメージと連想							
9. Speech acts and discourse スピーチアクトとディスコース							
10. Nonverbal language 非言語伝達							
さらに、データとして各自映画やテレビ番組の一場面、あるいは友達や家族との会話を録音してテープ起こしをし、談話分析の研究手法に従って分析を行います。							
なお、英語で卒業論文を書くための基礎を養うために、Extensive Reading（略してER、多読）も並行して行います。ERでは図書館にあるGraded Readersの中から自分の興味ある内容の本を選んで、昼休みや放課後等の時間を使って各自のペースで読み進めます。							
使用予定テキスト							
『An Invitation to Sociolinguistics 社会言語学への招待ー社会・文化・コミュニケーション』 田中春美&田中幸子編著、ミネルヴァ書房							
『タテ社会の人間関係ー単一社会の理論』中根千枝著、講談社現代新書							
『「甘え」の構造』土居健郎著、弘文堂							
『表と裏』土居健郎著、弘文堂							
『めざせ！100万語 読書記録手帳』SSS 英語学習法研究会著、コスモピア株式会社							
その他、プリント教材を使用するため、それを綴じるためのファイルを各自で購入すること							
ゼミの進め方							
各自で収集したデータをもとに、ペアやグループでディスカッションしながら進めます。							
成績評価基準							
授業態度・授業への参加 30%、ER 10%、卒業論文の準備と進み具合 60%							
ゼミ選択上のアドバイス							
ことばやさまざまな言語に関心があり、英語で社会言語学と談話分析に関する卒業論文を書き上げたいと考えている学生の皆さんは、藤本ゼミを受講して下さい。							
その他							

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	後期	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール6	区 建英			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

現地の視点を導入した中国研究

内容

このゼミはミニ留学にしたい、つまり、留学済の学生に留学経験を保ち、未留学の学生に留学のような授業を少しでも体験してもらいたいです。語学の授業ではなく、研究の中で中国語を用い、よって中国語の使用能力を高めるのです。

研究テーマは私の研究分野に縛られず、なるべく学生たちの個性を自由に伸ばしてそれぞれの関心を学問に組み込みます。中国を国際研究の具体例として取り上げ、中国そのものを知ること、または中国を通じて日本を見、世界的な問題を見ることを目指します。

例えば、中国は急速な経済発展において貧富格差や環境問題も発生しており、どのように格差を縮め、環境を守るのか。中国には56の民族があり、どのように相異の文化をもって共存するのか。これらの問題は中国の問題でありながら、世界的な問題でもあります。したがって、中国の実験および経験と教訓は、中国にとっての意義に止まらず、世界から高い関心が寄せられています。また、世界の同時不景気の中で各国はどのように景気回復を図るのか、国家間の利益対立の中でどのように協力を図るのか。これらの問題は、中国の経済振興策や、中日関係を含む中国の外交関係および中国が作った各種の国際協力体制に対する分析を通じて考えることができます。むろん、格差、環境、経済振興、異文化共存、日中関係などの問題を、皆さんのより身近な、日本ないし新潟の実践課題に根付いて考えることもでき、また他の国と関連して考えることもできます。なお、具体的な生活文化や民族文化に関する研究も可能です。

要するに、学生はそれぞれ自分の関心から、研究テーマを選ぶことができ、私はそれに応じて研究方法を指導します。

このゼミの特色は外国を研究する時、現地の視点を導入する方法を重視する点にあります。外国研究において、対象国の言葉で理解することがとても重要です。また、私たちはふだん無意識のうちに、自分の生活環境やマスコミによって「与えられた」画一的な見解を持たせられがちです。これも国際理解を妨げる要因です。したがって、中国という異文化を研究するには、日本語文献のみに頼るのではなく、できるだけ直接中国語文献を読むよう勧めます。ゼミでは、学生の関心事をテーマとして中国語文献を読解し、中国語で語り合い、自らの手による中国語資料の製作をも学びます。この面では丁寧に細かく指導し、学生の作業をしっかりと支えます。

使用予定テキスト

テーマごとに使用するテキストや資料を指示します

ゼミの進め方

中国の映像資料を見、中国語文献を読解し、討論を行ったりして、視野を広げながら、中国語による研究の能力を身に付けます。具体的に、学生たちはそれぞれ関心ある文献を素材にして研究発表を行い、様々な角度から文献を学ぶことによって自分の真の関心を見つけ、卒業研究へと発展させます。3年次は主として、中国語による中国研究の技能を学び、自分の関心がもてる課題を見つけ、学術研究の基本的な方法を学び、卒業研究の基礎をととのえていきます。4年次は自分の課題に基づいて研究を進め、1つの成果にまとめるよう指導します。

成績評価基準

ゼミの出席と発表・討論の状況に基づきます。

ゼミ選択上のアドバイス

このゼミは語学の授業ではなく、一定程度の中国語の修得を前提にして、中国語を研究に使用しますので、中国語使用能力の訓練を受け、その能力を駆使して研究を行いたい学生が望ましいです。したがって、ゼミに入るために下記の「条件」を設けています。中国語履修者であること、中国語文献の読解や中国語使用の訓練に意欲あること。

その他

中国で生まれ育った私は、20年以上日本に生活している立場によって、日本の視線から祖国を見ると同時に、中国の視線から日本を見ています。私の関心は一貫して、現代中国が抱えている民主化の問題と多民族社会の問題にあります。同時に、グローバル化と中国の経済発展および日中関係における諸問題にも注目しています。

ただし、ゼミの研究は私の関心と研究テーマに縛られず、主に学生の関心に基づきます。たとえば、過去の卒論に下記のようなテーマがあります。

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1、戦後の日中民間友好交流 | 2、日中のマスメディアの比較 |
| 3、中国の経済格差とその改善政策 | 4、中国の環境問題とNGO活動 |
| 5、中国大学生の就職難問題 | 6、中国少数民族の文化と教育 |
| 7、台湾と大陸の対立と交流 | 8、華僑・華人とチャイナタウン |

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
310008	XZY310008	2	ゼミ・卒研 (後期)	国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				情報文化学部情報文化学科	専門	必修	4年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
国際研究ゼミナール6	申 銀珠			情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
韓国・朝鮮と日本							
内容							
国際研究ゼミナール3、4、5で学習した内容を踏まえながら日本と韓国・朝鮮関連の様々なテーマを勉強し、具体的な自分の研究テーマについて発表してもらいます。時事問題なども積極的に取り上げながら常に自分と社会の関連性を意識し、理解を深めていきたいと思います。							
使用予定テキスト							
ゼミ生の発表内容に応じて参考文献等を紹介し関連分野の理解を深めていくようにしたい							
ゼミの進め方							
発表者の発表内容を事前に知らせ、関連分野について事前に学習して臨むようにしたい。							
成績評価基準							
主に学期末のレポートで評価する。出席率、普段の授業態度、発表内容、発言等を評価に加える							
ゼミ選択上のアドバイス							
その他							

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習